



浦山さんは、文献を参照した詳しい資料から史実に基づき説明

浅葉克己さんと佐藤可士和さんのふるさとポスター教室

6月23日【チームスマイル・釜石PIT】

「釜石の魅力を市外にアピールする」をテーマに公募されたポスターにおいて、日本を代表するアートディレクターの浅葉克己さんと佐藤可士和さんによる公開講評が行われました。高校生と一般から28作品が出品され、釜石高校2年の高木悠さんがグランプリに輝きました。浅葉さんは「一つ一つ丁寧で、ばらばらにはならなくて良かった」。佐藤さんは「描き切れているのが良かった」と評価しました。

※浅葉克己賞は釜石商工高校2年の藤井隆稀さん、佐藤可士和賞は釜石商工高校3年の會田紫月さんがそれぞれ受賞

※根浜海岸にある「津波記憶石」は、浅葉さんが揮毫しています



高木さんは「選ばれて嬉しい。自信になりました」と話しました

第8回キャンドルナイト with ひとつの街

6月24日【希望と笑顔のこすもす公園】

今年は、盛岡で飲食店を経営する、釜石出身の伊勢央さんの呼び掛けで集まった、盛岡と紫波の飲食店などの出店もあり、家族連れなど大勢の人でにぎわいました。日中には、宝探しゲームが催され、子どもたちが公園内に隠された石を元気よく探し駆け回る姿も。また、日が落ちると、公園内はキャンドル灯りの幻想的な空間に変わり、音楽ライブに出演したコスミス（釜石の音楽ユニット）の幽玄な音色に参加者は酔いしれました。

東日本大震災の犠牲者の鎮魂と未来への希望を願い灯されたキャンドル

いきいき100歳体操交流会

6月26日【チームスマイル・釜石PIT】

市は、高齢者の自立した生活を支援するために「いきいき100歳体操」の普及活動を進めています。交流会には、普段から体操をしている市内各地区10団体、約90人が参加し、保健師による「介護予防について」の講演の後、釜石のぞみ病院理学療法士の千葉悟さん指導の下、100歳体操を実践。各団体の普段の活動について情報交換も行われ交流を深めました。

学舎植樹祭～尾崎半島を緑豊かな森に再生させよう！



リアス式海岸特有の地形で石の多さに手間取るも、一本一本の木がしっかり根付くように植樹しました

6月30日【尾崎半島 鷹巣山東側】

昨年発生した尾崎半島の林野火災を受け、尾崎半島トレッキングの参加費や、燃えた木で作ったグッズの売り上げの一部を募金として集めてきた尾崎100年学舎。その募金を活用して、釜石地方森林組合共催で植樹を行い、参加者17人はカラマツとコナラの苗木を約250本植えました。また、地元の釜石湾漁協白浜浦女性部の炊き出しによる昼食が提供され、猛暑の中、活動した参加者の労をねぎらいました。

※同森林組合では4月から7月にかけて10回の植樹を行い、釜石高校や市内外の企業など延べ120人が参加しています（面積約1.9㌥、約3,900本）。同森林組合や同学舎では、今後も植樹をはじめとする森林再生に係る活動を行う予定です



腕に重りをつけて、ゆっくり上げ下げする体操

橋野鉄鉱山創業160周年記念事業 「みんなの橋野鉄鉱山」

6月3日【橋野鉄鉱山インフォメーションセンター他】

橋野高炉跡が国指定史跡に指定された6月3日。地元住民ら約50人が参加して、ごみや木枝拾いに汗を流した後、岩手大学理工学部准教授の小野寺英輝さんによる講演が行われました。「近代製鉄を縁の下で支えた者たち」と題した講演では、幕末から明治初期にかけての世界的な時代背景と、大島高任の活躍を支えた人々を紹介。特に大島福治（高任の弟）の活躍が高任の功績の支えになったと話し、聴衆は高任の人脈の広さに感心しました。



小川鹿踊り保存会が勇壮な舞を捧げました

第40回釜石大観音例大祭 炎の祭典

6月3日【釜石大観音】

石応禅寺は、今年で40回目となる「炎の祭典」を開催。祭壇が2つ設けられ、石応禅寺の僧侶が読経した後、点火しました。不浄煩惱を焼き尽くし、諸願成就を願う「祈願の炎」と、ご先祖や無縁さま、水子、三陸津波犠牲者などの供養を行い、ご先祖さまのご加護に心の平穏を得られるように念じる「供養の炎」。僧侶は祈願のお札を火に投げ入れ、参列者は焼香、拝礼しました。集まった150人の一般参観者は、燃え上がる炎に平穏を祈りながら祭事を見守りました。

釜石市防災講演会

6月4日【釜石市民ホールTETTO】

市内の教育関係者や一般の人を対象とした防災講演会が開かれました。東京大学特任教授の片田敏孝さんが「地域と連携した防災教育が子どもを変える地域を変える」と題して講演。片田さんは「地域の中で子どもたちを育む環境を整えることが防災教育につながる」と呼び掛け、参加した約210人の教職員らは、学校と地域が一体となった防災教育の重要性に理解を深めました。



市教育委員会の文化財担当者から葛西と伊能との関わりについて説明を受け、当時の様子に思いを巡らせた様子



防災教育の在り方を訴える片田さん

伊能忠敬没後200年記念事業 奇巖亭散策と整備

6月9日【唐丹町 奇巖亭跡】

日本で初めて実測で日本地図を作成した伊能忠敬が死去して200年を記念した事業。唐丹出身の天文学者・葛西昌丕の隠居屋敷である奇巖亭周辺の散策と整備に、地元住民など約20人が汗をかきました。葛西は、伊能の業績を江戸時代に記したものとしては唯一の「奥州気仙郡唐丹村測量の碑」や「星座石」を作成した郷土の偉人。奇巖亭跡は唐丹湾を望む高台にあり、天気がいい日は対岸の大石地区が見えます。

釜石市消防団消防操法競技会

6月17日【釜石消防庁舎隣り】

震災後2回目となる消防操法競技会。ポンプ車の部には6チーム、小型ポンプ車の部には4チームが出場し、ホースの延長や放水の動作など、早さ、確実な動作、安全性を競いました。ポンプ車の部の優勝第6分団第1部（鵜住居町中心部）、準優勝第6分団第8部（鵜住居町新田）、3位第7分団第1部（栗林町）と、小型ポンプの部優勝は第6分団第5部（鵜住居町川目）、準優勝第7分団第3部（橋野町中村）、3位第5分団第4部（甲子町洞泉）の6チームは、7月1日に遠野市で行われた遠野・釜石地区支部消防操法競技会に出場しました。



小型ポンプの部は4人1チームで素早く的確にホースを延ばします